

関東大震災 93 周年 虐殺された中国人労働者を追悼する集い



2016 年 9 月 4 日午後、韓国 YMC A9 階国際ホールで 93 周年の集いを開きました。各団体よりの供花が両脇に並び、正面には関谷興仁さん制作による「悼」碑ならびに受難者の氏名を刻んだ名標が安置され、正面左右には浙江省・温州の華蓋山山頂に建つ「吉林義士王希天君記念碑」「温州旅日華工記念碑」を実物大に写し撮った写真幕が掲げられています。

黙祷に続いて、訪日した 8 名の遺族の皆さんが紹介され、周松権さんと林俐さんが遺族挨拶を行いました。その間に、2014 年に提出した日本政府あて要求文に続けて遺族 302 名が連署している、10 メートルを越えようかという「連判状」を他の遺族が総がかりで準備し、挨拶が終わると会場前面一杯に広げました。次いで王旗さんのメッセージが紹介されました。来賓挨拶の中国大使館の沈建国参事官（写真）が「日本側も歴史を直視し、しかるべき政治的及び道義的責任を引き受け、このような歴史遺留問題を適切に処理し、実際の行動で歴史を反省する承諾を体现することを希望します」と述べられた。さらに一般社団法人日中協会の白西紳一郎理事長よりご挨拶を頂き、来日中の福清黄檗文化促進会の林文清会長一行ならびに一般社団法人日本温州総商会の皆さんが参加していることを紹介しました。恒例となっている李政美さんの歌に受難者を偲び、歌声にあわせ参加者一同で献花し追悼の部を終えました。引き続き第二部では、木野村間一郎さんより「王希天と南葛地域の労働運動」、鄭楽静さんからは温州と瑞安地区の 39 名を訪問している遺族調査の報告。95 歳になる林玉英さんの「いまさら話しを聞きに来るのは遅いのよ。私たち家族に何をしてくれるの」と言う一言は、



文字通り 90 年の沈黙を破るものでした。続いて林伯耀さんが 1944 年神戸福建行商人虐殺事件の報告をしました。



前日の 3 日には、被害現地参観（写真は大島 8 丁目集団虐殺現場での追悼）。

5 日には、外務省交渉をしました（対政府交渉参照）。

